

## 令和5年度 第3回 伊勢市障害者施策推進協議会 結果概要

開催日時	令和6年1月11日（木曜）19時00分～19時35分
開催場所	伊勢市役所東館5-3・5-4会議室
出席委員	宮崎 吉博 会長、大杉 成喜 副会長、河之口 学 委員、嶋垣 智之 委員、斎藤 茂 委員、小林 えり子 委員、中森 忠司 委員、立松 浩明 委員、三宅 浩 委員、溝井 力 委員、金子 直由 委員、田中 雅也 委員、中野 温 委員、浅尾 賛平 委員、横田 由美 委員、越知 ひとみ 委員、森 美穂 委員、前田 弓子 委員、森 夏代 委員、山本 明伸 臨時委員（自立支援部会長）
事務局	高齢・障がい福祉課長・障がい福祉係長・係員1名 福祉総合支援センター長・センター長補佐・総合相談係長・係員1名 こども発達支援室長・副参事、学校教育課副参事 基幹相談支援センター長・職員、地域相談支援センター長2名
傍聴者	1名

### 1 伊勢市第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画（案）に対するパブリックコメントの結果について

パブリックコメントへの回答案について了承。

（委員からの意見等）

- ・意見者は2名であったが、閲覧者はどれくらいか。  
→閲覧者に関しては把握していない。

### 2 伊勢市第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画について

計画最終案について了承。

（委員からの意見等）

- ・緊急時の受入の仕組みづくりについて、利用者は登録制と記載してあるが、緊急時には登録していない方の避難もある。やはり、登録制でないと仕組みづくりは難しいのか。また、災害時と地域生活支援拠点の緊急時では意味は異なるのか。

→基本的には事前の登録を行い利用する流れとなる。地域生活支援拠点の体制を整えていくことに力を入れている中で、受け入れる施設側も事前に利用者の状態等を知っていないと難しいということで、事前登録してもらい体験や見学をしていただくことで緊急時の利用もスムーズになる。また、事前の緊急時プランを作成することで連絡体制等の確立や、プランに基づき支援していくことを想定している。今後、仕組みを動かしていく中で、登録していない方の利用もできるような体制を検討していく。

また、地域生活支援拠点の緊急時は、保護者の急な入院などを想定しており、災害時の支援としては、個別避難計画の作成をしていただき、自治会や民

生委員に情報共有し、地域での支えあいの体制づくりに努めている。今年度からは居宅介護支援員や相談支援専門員にも個別避難計画作成の協力をしてもらっている。

- ・手話奉仕員養成については力を入れているが、要約筆記養成については力を入れないのか。  
→要約筆記養成について、今年度も体験や講座を開催予定であり、力を入れている。
- ・近年、手書きの要約筆記のほか、パソコンの要約筆記もあり、さらに自動の音声認識も出てきている。そのような養成も含んでいるのか。  
→伊勢市に登録のある要約筆記登録者については、皆さん手書き対応である。県へ登録がある方については、パソコンでの要約筆記として登録されている方もいる。養成等については、手書き、パソコン共に進めているところ。
- ・市民アンケートにおいて今後期待する施策としての回答が多かった「日常生活を支援する人や施設を増やす」ということは相談支援専門員や共同生活援助を増やしていくということなのか。就労支援についても、就労継続支援 B 型や就労継続支援 A 型の事業所を増やしていくという意味で捉えていいのか。  
→アンケート結果を踏まえて、要望の多い部分の推進を優先的に進めていくよう計画を策定してきたと認識している。事業所へのアンケートにおいても、人材不足に対する意見も多く、引き続き、自立支援部会でも協議していきたい。就労支援については、一般就労への支援も含んでいるものである。
- ・来年度、報酬改定が予定されているが、グループホームの支援の質の確保を懸念している。何かお示しいただける情報などはあるのか。  
→今後、国からの資料提供等があり次第、本協議会へも情報共有していく。

### 3 その他

会議の結果概要については、事務局にて取りまとめ、会長に一任いただくことで了承を得る。

- ・子ども用車いすマークの周知
- ・てったおカゴの周知
- ・第3回インクルーシブスポーツフェスタの周知